

新しい学習指導要領で目指すこと



新しい学習指導要領では、育成することを目指す資質・能力を3つの柱で整理しました。



このような資質・能力を育むため、各学校で子どもたちがどのように学ぶのか **(主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善)** を紹介します。

振り返ってみよう！

- ✓ 主体的とはどういうことだろう？
- ✓ 対話的とはどういうことだろう？
- ✓ 深いとは？

自分の考える「主体的」「対話的」
そして「深い学び」とは何か！

主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）

「主体的・質の高い学能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。



子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。



習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

よくある質問

- ✓ どうすれば客観的な評価はできるの？
- ✓ どうやって態度の評価をするの？
- ✓ 評定はどうするの？

一緒に考えていきましょう！

学習評価に関する参考資料



「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料 【中学校数学】



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

中学校

数 学

NIER 文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research
教育課程研究センター

学習評価の現状における課題



学習評価の現状について、学校や教師の状況によっては、以下のような課題があることが指摘されている。

- 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、**評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない**
- 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない
- 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい
- 教師が**評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない**
- 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない

学習評価の改善の基本方針



学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進する。（客観性ばかりを追い求めるものではない。）



資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

[平成20年改訂]

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

[平成29年改訂]

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な**知識及び技能**を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力**その他の能力をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

各教科における評価の基本構造

資料8ページ



- 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。

学習指導要領に
示す目標や内容

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等

学びに向かう力、
人間性等

観点別学習状況
評価の各観点

- 観点ごとに評価し、
生徒の学習状況を分析的に捉えるもの
- 観点ごとにA B Cの
三段階で評価

知識・技能

思考・判断・
表現

感性、思いやり
など

主体的に学習に
取り組む態度

評 定

個人内評価

- 観点別学習状況の評価の結果を総括するもの。
- 五段階で評価（小学校は三段階。小学校低学年は行わない）

- 観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。25

質問

評定の出し方の考え方を示していただきたい。内容のまとまりごとの評価を県独自の方法で総括してよいのか、それとも国が推奨する方法があるのか。

1. 改善等通知では、従来と同様に、**評定の適切な決定方法等**については、**各学校において定めること**としています。
2. 学年末に指導要録に児童生徒の学習状況を記録する際に、観点別学習状況の評価を評定に総括する場合、
 - ① 新学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」のバランスの取れた育成を求めていること——**1：1：1である必要はないが、極端な偏りはないように。**
 - ② 改善等通知の別紙のとおり、分析的な評価を行う**観点別学習状況の評価は評定を行う場合において基本的な要素となるものである**ことに十分留意することが求められること、などに留意する必要があります。



- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である

- ・ 「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価）
 - ・ 「技能（各教科等において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかを評価）
- においても重視。

<評価の工夫（例）>

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・ 児童生徒に文章により説明をさせる。
 - ・ （各教科等の内容の特質に応じて、）観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

一元一次方程式の解の意味（全国学力・学習状況調査平成28年数A3(2)）

(2) 一次方程式 $2x = x + 3$ の左辺と右辺それぞれの x に 3 を代入すると、次のような計算をすることができます。

**x に3を代入すると
両辺ともに6になる。**

$2x = x + 3$ について、

$x = 3$ のとき、

$$\begin{aligned} \text{(左辺)} &= 2 \times 3 \\ &= 6 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(右辺)} &= 3 + 3 \\ &= 6 \end{aligned}$$

このとき、この方程式の解についていえることを、下のアからエまでの中から 1 つ選びなさい。

ア この方程式の解は 6 である。

解は6である。30.9%

イ この方程式の解は 3 である。

○解は3である。48.2%

ウ この方程式の解は 3 と 6 である。

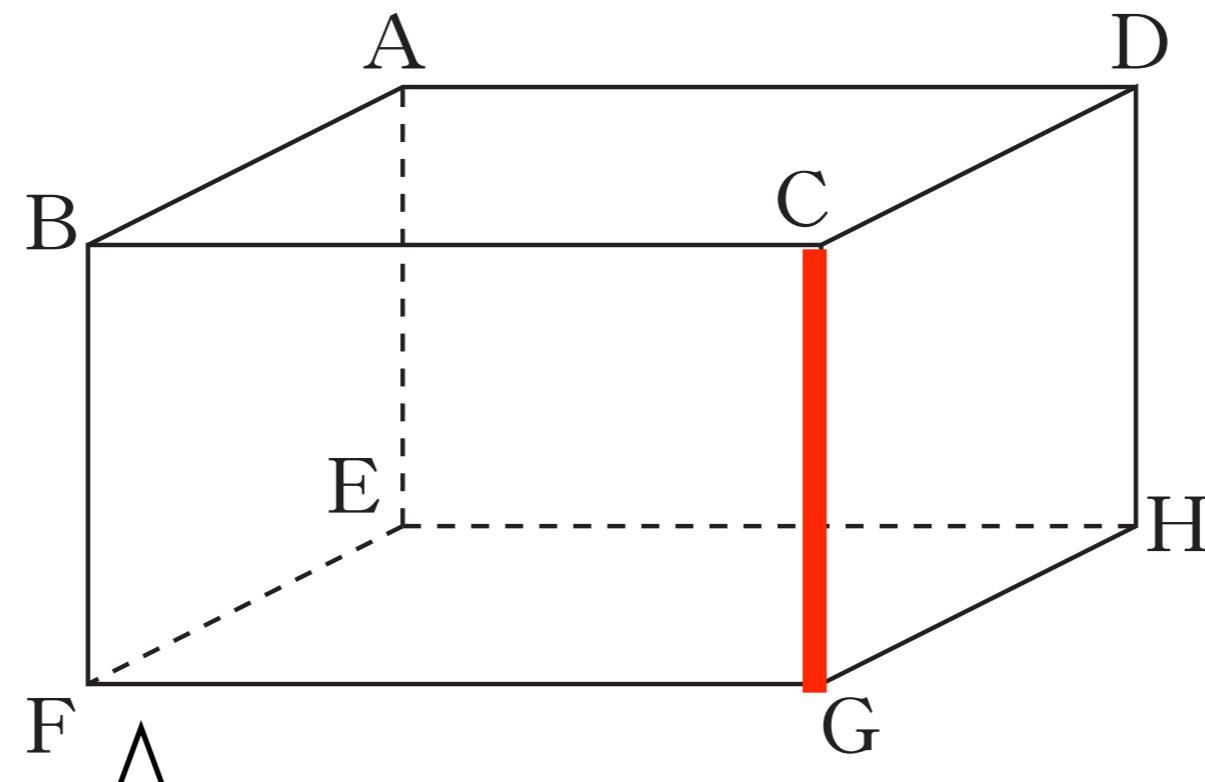
5.7%

エ この方程式の解は 3 でも 6 でもない。

14.7%

直方体の辺に垂直な面（全国学力・学習状況調査平成27年数A 5(1)）

(1) 下の図の直方体には辺CGに垂直な面がいくつあります。そのうちの1つを選んで書きなさい。



正答率は、47.9% (ABCD,EFGHのいずれか)

BFGC,CGHDのいずれかと解答した生徒が36.0%

空間において直線と平面が垂直とは、どういうこと？

発問について

例えば, …

- 明らかにする（どういうこと？）
- 理由を聞く（どうしてそうなるの？）
- 具体例を考えさせる(例えば?)
- 確認する(それでいい?)

なるべく多くの子に発言させたい。

重複も正誤も許し、多くの生徒の考え（予想）を訊く工夫
(表現(評価)機会を増やし自分の問題として捉える)



各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

*上記の考え方は、現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

<評価の工夫（例）>

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

子供が考えたり判断したりしたことを何かしら表現できる機会を設定したいですね。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価①



「学びに向かう力、人間性等」には、Ⓐ主体的に学習に取り組む態度として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、Ⓑ観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分がある。

学びに向かう力、人間性等

観点別学習状況の評価にはなじまない部分
(感性、思いやり等)

Ⓑ

「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分

Ⓐ

個人内評価（児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの）等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要。

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。